

# コスモス 12月号

第70巻 第12号

◆宮柊二カレンダ―(45) 十二月の歌

うち  
おかたなとぎし  
内暗き御刀砥師の家の前過ぎきて冬の風を背  
に受く  
歌集『群鶏』

「御刀砥師」という時代から取り残されたような  
刀砥ぎ職人の家。狭い入口から見える奥の暗がりに  
昔気質の固陋な職人が住む。歌は「内暗き」という  
初句の形容そのみで他に説明はないが、抒情の幅  
を広げる十分な効果がある。また下句の重たい屈折  
表現に孤独派柊二のストイックな心象が滲んでいる。  
初出は「多磨」昭和十三年新年特別号、作者二十六  
歳。白秋先生のもとにいて、先生から「君は暗い」  
「君は何故孤独なのだ」「君の歌は瘤の樹をさするよ  
うだ」と言われた頃の歌である。(黒石 孝)